

学生FD活動について ～学生との「協働」について考える～

2025年度「学生支援に関する基礎研修講座」

2025年8月28日(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

14:50～16:50

法政大学 大学評価室長

理工学部 機械工学科/教授 川上 忠重

講義2(分野:教育改善) タイムスケジュール

14:50～15:20 導入・講義

15:20～16:00 グループワーク

16:00～16:10 休憩

16:10～16:40 グループワークの発表

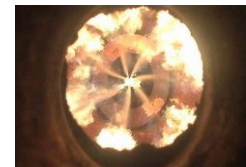
16:40～16:50 全体振り返り

16:50 閉会

立ち位置の確認

法政大学理工学部機械工学科 教員(法政大学工学部出身)
1993年に専任講師で着任 *** 専門は燃烧工学**

2007年～2008年 法政大学FD推進プロジェクト・リーダー
2009年～2012年 法政大学FD推進センター長
2013年～2018年 法政大学FD推進プロジェクト・リーダー
& 学生FD担当教員



2017年～現在 **法政大学総長室付大学評価室長**

外部委員
大学基準協会 基準委員会委員、
調査研究部会調査研究員(学生参画、産業界連携)
一般社団法人日本私立大学連盟
・教育研究委員 ・FD推進ワークショップ運営委員会
他大学外部評価委員等



学生FDとは？（１）

木野 茂編著 「学生、大学教育を問う」

●大学を変える、学生が変わる3

学生FDとは、授業や教育の改善に関心をもつ学生が、その改善のために学生自身が主体的に取り組む活動であり、大学側との連携を求めるものを指す。

ナカニシヤ出版(2015)

学生FDとは？（2）

中井俊樹、西野毅朗編著 「大学FD入門」

学生参加型FD

学生の参画を取り入れたFD

- ・学生と教職員の意見交換会の実施
- ・学生FD団体の組織化と連携
- ・学生による授業コンサルテーションの実施

ナカニシヤ出版（2024）

学生FDの学生の役割とは？

日本ではFDを実行する責任も権限もあくまでも教職員である。

したがって、学生FDの学生は、学生の視点からみたFDの課題を教職員に届ける橋渡し役であり、それを大学のFDに活かしたいと思う教職員への応援団ともいえる。

☆彡：大学との連携(理解ある教職員との連携)は、やはり必要・不可欠

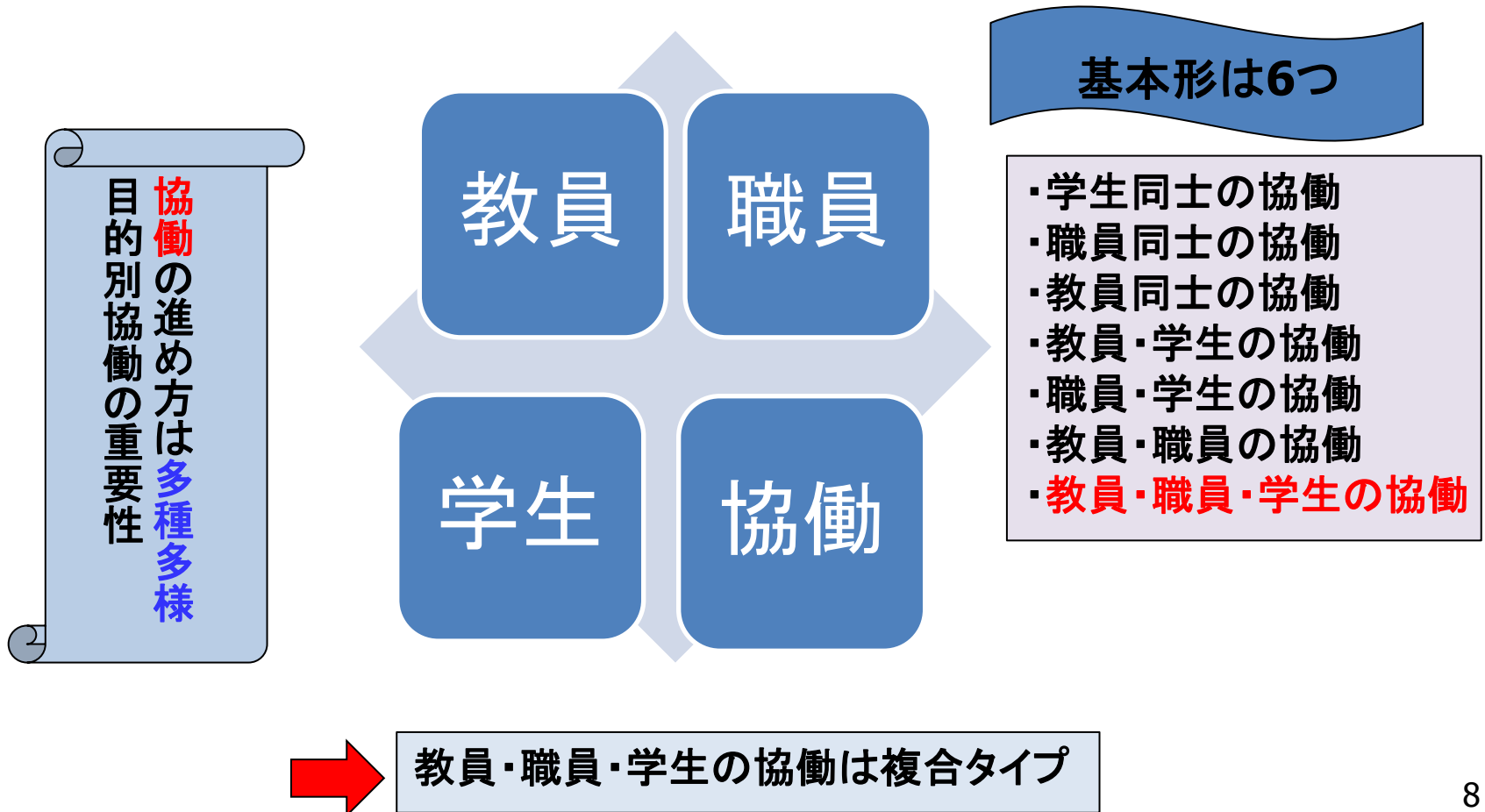
学生との協力から「協働」へ

協力(Cooperation)から協働(Collaboration)に向けて

- ・立場や役割を超えて**共に創る・築く**
- ・教職員のお手伝いから**対等な関係性に基づく分担**を意識
- ・教員・職員にも**「それなりの準備」**が必要

お互いが目的に対して、**自分事**として考える

大学での協働の進め方



教員・職員・学生協働の可能性

学生同士の協働

例：**ピア・サポート活動**（ピア・チューター制度等）上級生が下級生の学修や学生生活をサポートする制度。履修相談、レポートの書き方や留学生へのサポートを通じて、**学生同士の学び合い**が発生する。ゼミ内での共同プロジェクト、授業改善提案のグループ活動

職員同士の協働

例：学務・教務・学生支援・キャリア部門等の連携による**学生支援体制の構築**。共通プロジェクトで、データを共有しながら一人の**学生を複数部署で支援**する。学内イベントの横断的な運営（オープンキャンパス）、DX推進チーム等の部局横断プロジェクトや**各種研修制度**

教員同士の協働

例：**教員授業相互参観**（授業相互参観を実施し、相互フィードバックによる授業改善）や分野別ルーブリック評価の開発。**文理融合型のリベラルアーツ科目**やPBL科目を設計・運営する。**全学的なカリキュラム検討委員会**も組織的な取り組み事例の1つ

教員・職員・学生協働の可能性

教員・学生の協働

例：学生参画型FD活動（授業改善アンケート結果を踏まえた教員・学生座談会） 一般的な学生FDのイメージに近い場合が多い。教員と学生と一緒に「授業改善」等を検討することにより、**双方向の「意見交換の場」**を構築

職員・学生の協働

例：オープンキャンパスや学生広報チームとの共同運営 学生の**ピア・サポート活動を大学として事務的にサポート**しながら、職員と一緒に大学の魅力を発信。学生相談室の企画運営の補助や図書館ツアー等も実施

教員・職員の協働

例：授業運営の支援 **通常行われている大学業務**である（LMSの情報配信、教材配布、教室手配、アンケートサポート等）。学修成果の可視化（IR）における連携（専門部署や専門スタッフの配置による対応も有）。カリキュラムマップやシラバス整備も**職員アドバイザー**が実施

教員・職員・学生協働の可能性

教員・職員・学生の協働（複合型）

・学生参画型FD（授業改善座談会）

学生が教員・職員と一緒に授業改善に関する検討を**同じ立ち位置**で実施

・授業運営サポート体制の構築

教員が授業内容をアドバイス、職員がLMSの活用やシステム操作を支援、**学生がグループワークのファシリテーターやTA**としてサポート

・学生支援・キャンパスライフの充実を目的とした協働

キャリア支援イベント、ボランティア活動、ゼミ配属支援等、**各々の「役割」を明確化**し、組織的な学生支援に対する「成果」に向けて協働

・大学の広報・大学ブランディングに関する協働

大学が広報活動の1つとして大学の魅力や大学ブランディングを実施する場合、その企画や実際のインタビューを学生が担当

・カリキュラム設計・制度設計の段階での協働

学生がカリキュラムモニターとして、**「学び」の実感や負荷**に関するフィードバックを提供
フィードバックの内容を、教員は教育内容、職員は制度を設計

☆彡：地域連携、社会貢献、内部質保証への参画も期待される。「場」の確保も重要

教員・職員・学生協働の可能性

身近なところから、学生・職員・教員が一緒に考える。

☆ ㄱ : 学生FDのはじめの一步

* 地道な交流活動にも、ヒントが実は満載！！

「大学での学び」を教員・職員・学生と一緒に考える

* 身近なテーマからわかりやすい結論と提案

それだけでも学生の自己成長にはつながります！

学生・職員・教員協働の可能性

皆さんのアイデアによるトリガーをうまく利用して、大学として(教員・職員として)、取り組むべき実効性のあるFD・SD活動の原動力とする(やっぱり応援団?)。

* 教員・職員・学生が一緒に考え、提案出来る場があれば、ミクロ・ミドル・マクロレベルのFD・SDの活性化による教育改善

☆≡: 同じ大学人としてのピア意識が重要

公益財団法人 大学基準協会における「内部質保証」の定義

「内部質保証」(Internal Quality Assurance)とは、PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス

☆彡: 内部質保証の主たる対象は教育活動であり、その目的の中心は、教育の充実と学習成果の向上

例1

- ・学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設
- ・学習成果を習得させるために、学生の学習の活性化をはかり、効果的な教育を行う。
→ * 大学・学部・学科のカリキュラム・ポリシー(CP)

例2

- ・学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握
→ * 大学・学部・学科のアセスメント&ディプロマ・ポリシー(DP)

☆彡: 内部質保証に関する取組みは、身近なものです！

学生参画の定義

学生参画は、学生と大学の両者が費やす時間・努力・資材の相互作用に関係する。そして、その目的は、学生の学習経験を最も効果的にし、**学生の学習成果と成長**、彼らのパフォーマンス、および**大学の名声を向上**させることにある。(トローラー:2019年)

学生参画とは概ね、個々の学生の目標、抱負、価値、信念などの観点から、**彼らが高等教育に何かをもたらす**ことである。そして、その何かが彼らの経験によってどのように形成・伝達されるかでもある。(ブライソン:2014年)

国内事例(対面、メール及び文献調査)

①立命館大学(全学協議会)

全学協議会とは、立命館大学において、大学という「学びのコミュニティ」を構成する**学部学生、大学院生、教職員および大学(学部長が理事として参加する常任理事会)**が、**教育・研究、学生生活の諸条件の改革・改善に主体的に関わり、協議するために設置**された機関

②創価大学(学部及び全学)

経営学部:学生のネーミングで、**経営学部未来会議**と称して、学生と教職員で自由に議論しながら、自己点検を実施。**学生の視点で、学生へのアンケート調査等を実施し、大学と共有**

*** 学生の視点ならではの項目があって参考になっている。**

③龍谷大学(学部連合学生会)

構成員:短期大学部を含む**各学部学生会**の代表から構成されている。

正課教育に関する各種アンケート調査、学生FDサロンの開催

履修相談ブース→2014年度から学修支援開発センターが教学部や各学部教務課に協力を依頼し、事前に学生に履修要綱の記載内容の変更点などを説明する**勉強会**を開催

ラーニングコモンズ→「教えない」ライティング支援

チューター(有給)は、**各種研修を積み重ねた大学院生**を採用

1・2年次の学生キャリアサポーターが行う就職支援→キャリサポは、上級生向けのイベントの支援することにより、**自身のキャリアも形成**する構造

④芝浦工業大学(教育イノベーション推進センター)

学生による授業コンサルティング(Student Consulting on Teaching)

☆≡:教育や学修等について研修を受けて認証されたSCOT生が、教員の授業改善のサポート

→依頼のあった教員の授業を客観的に観察し、学生の視点を踏まえた情報を教員に提供

⑤岡山理科大学(教育開発センター)

学生参加型FDの具体的な取り組み

1)学生FD委員会の設置

- ・学内FD委員会に学生が正式メンバーとして参加
- ・授業改善や学修環境整備に対する提案・意見交換

2)学生主催のFDイベント開催

- ・「学生目線で考える授業づくり」等のワークショップ
- ・他大学との交流も実施し、裾野の拡大

⑥広島市立大学(教育基盤センター)

教育基盤センターが主導し、「学生の声」を制度的に活かしている

1)「学生の声」を取り入れる「カリキュラム・コンサルティング」等の仕組みを構築

- ☆彡:主に卒業見込みの学生が主体となり、全学共通科目や学科の専門基礎科目等、
大学で履修した内容について評価と助言を実施

2)学生代表が内部質保証や授業評価に参画する仕組み

- ☆彡:教員・職員・学生の連携による改善

☆彡:なぜ、自己点検・評価(内部質保証)に学生参画が必要なのか？

- ・単に海外の大学や認証評価機関で導入されているとか、JUAA(大学基準協会)がINQAAHE(高等教育質保証機関国際ネットワーク)から指摘を受けているでは不十分
- ・法政大学「ピア・ネット」の実績から、**波及的な1つとして組織的に対応**することが重要
- ・学生参画を必要とする**主張の整理**
 - * 学生は高等教育における学習主体・当事者
 - * 学生は一番重要なステークホルダー
 - * 学生は教育学習活動における一方の専門家
 - * 学生は社会に対して質保証のエビデンスとなるアウトカムを示せる存在
- ・**参画する学生のメリット(利益)**と大学から参画学生への説明責任
→単なるキャリア支援の一環ではなく、「目に見える成果」を定量的に評価
間接的関与でも同様である。

☆彡: 自己点検・評価への「学生参画」のあり方とは？

- ・学生を評価者として参画（欧米型） / **学内の内部質保証の一環として参画（日本型）**
→両者は連関している部分もあるが、後者から始める方が教員・学科・学部の連携が推進
- ・すでに大学基準協会の第4期認証評価では、「学生参画」が頭出しされているので、
大学としての対応は必須
- ・内部質保証への「学生参画」については、アンケートや学修支援システム等に関するヒアリング（学生モニター制度も活用）も含めて、**間口を広く取っておくことが必要**
- ・学内での学生向けアンケートの活用も重要な要素（**学生の負荷についても考慮が必要**）
- ・組織（大学全体）、学部・学科、教員及び学生の**メリット・デメリットの理論整理**

学生参画への取り組み内容(法政大学の教育の質保証・質向上に関する学生座談会)

本学での内部質保証への「学生参画」のアイデア出し(項目一部抜粋)

- ・学生主体のアンケート ・学生(学部単位)の中で教育目標を考える
- ・「職員トーク」を開催・復活する
- ・学部内の代表学生が相互に意見交換 ・既存の学生が主体となっている組織同士での交流
- ・「目安箱」の設置 ・大学が発信している情報の学生との共有(広報活動)
- ・学生こそが重要であることを大学側が学生に周知
- ・学生の成長を見える化
- ・他学部他学科の学びを知ることにより自分が何を学んでいるかを明確にする
- ・学生同士で何かを行いたい(履修、授業相談会等)時に**その活動をサポートするチームを作る(学生の自主性向上)**
- ・学生自身の能力向上 ・外国語に関しては、学生に選択型アンケートを実施し、結果を踏まえて教員が授業を工夫
- ・定期的に匿名のアンケートを実施する
- ・気軽に参加できるイベントや学習会を開催

☆彡:学生FDと共通項が数多く存在する

「有効性」を担保するためのStepは？

- ・自大学での**長所・課題が明確に洗い出されていること**

☆彡：ただし、その**根拠をエビデンスとしてある程度「定量的」に示す**ことが重要

→長所の伸長を意識するだけでなく、**改善すべき課題や改革の方策を、目的に合わせて「短期・中期・長期」にすみわけ、大学として推進する。**

書きっぱなしの「自己点検・評価」を作成するではなく、学内の**「意思疎通」を熟成**させながら、**各大学の「理念・目的」の実現に向けたStep創り**を実践

大学のためには**どのような「自己点検・評価」活動を設計し、運営**するか？

- ☆彡：「有効性」を意識した**各組織のリーダーシップ力**を育成
- ・学部・大学院の長は、自己点検・評価の大学にとっての意義（教育・研究等の改善にいかに関与するか）を十分に構成員に伝え**& 理解が得られているか？** **「言いつぱなし」では効果なし。**
- ・各委員長は、職責を担うための知識や能力が備わっているか？
→**補完するための研修や意見交換の機会**等是用意されているか？

具体的な「有効性」の検証

継続的な大学の組織的取り組みを融合した自己点検評価の実践的改善

- ・3つのポリシーの見直し
- ・授業改善アンケート
- ・カリキュラム・マップ・ツリー
- ・科目ナンバリング
- ・アセスメント・ポリシー
- ・アセスメントシート

☆彡: 多くの取り組みが併行して実施



全体を俯瞰しながら、自大学に
今必要な点検評価項目により、
客観的に評価する。各大学の**学
部内に設置された質保証委員
会**や**大学評価委員会としての
外部評価結果**も重要

☆彡: 外部評価委員会の**評価
結果への対応**も実施

大学全体として組織的に対応
* スペシャルな技法は不要
→大学の軸足を認識

☆彡:大別して他大学の事例を参考にすると、学生との協働には、

1) **自治会活用**タイプ(学部委員タイプも有り)

2)「建学の精神」に基づく**教職学の協働**タイプ(学部別も有り)

3)学生自身の「成長」に繋がる**学生自発型**タイプ

に分けられる。但し、**ピアサポーター的なものも数多く含まれており**、国内での「内部質保証」制度への「学生参画」は、**全学委員会への参加(オブザーバー含む)や間接的関与(アンケート)が主流**である。

☆彡:自大学での学生参画の**目的と意義の整理も必要**
(**学生FDの経験を踏まえて**)

☆彡:学内のFDや内部質保証への「協働」のあり方とは？

- ・学生を評価者として参画(欧米型) / **学内のFDや内部質保証の一環として参画(日本型)**
→両者は連関している部分もあるが、後者から始める方が教員・学科・学部の連携が推進
- ・すでに大学基準協会の第4期認証評価では、「学生参画」が頭出しされているので、
大学としての対応は必須
- ・内部質保証への「協働」については、アンケートや学修支援システム等に関するヒアリング(学生モニター制度も活用)も含めて、**間口を広く取っておくことが必要**
- ・学内での学生向けアンケートの活用も重要な要素(**学生の負荷についても考慮が必要**)
- ・組織(大学全体)、学部・学科、教員及び学生の**メリット・デメリットの理論整理**

質保証における学生参画のあり方に関する調査研究部会 大学基準協会 インタビュー調査からの「学生参画」所感

- ・自大学の「強味」を活かしたFD関連組織の構築の重要性
- ・「核となる教員主体型」ではなく、持続性を意識した事務方中心の組織
- ・具体的な「成果」については、丁寧な調査と情報分析が必須
- ・学生自治会や自主的な学生活動との組織的連携は、導入しやすい
- ・「学生参画」の成果が、一般学生にも目に見える形でフィードバック
- ・大学執行部の「学生参画」に対する意識の向上が「成功のカギ」
- ・「学生参画」している学生のモチベーションは極めて明確
- ・授業改善等を専門に担う教職員と「参画学生」との協働意識

第9回大学基準協会 大学評価研究所「公開研究会」振り返り(各研究員)

- ・**学生の成長**とはどのようにかかわるのかという面からも考える
- ・**ボトルネック**およびその解決に向けた**難易度を可視化**
- ・**「学生参画」というものを広く捉える**
- ・早期に先輩サポーターの活動に触れ、憧れの対象となり得る
ロールモデルのイメージを具体的に獲得
- ・**大学をめぐる状況**を学生に適切に伝え、**情報共有**
- ・大学側と学生側の**課題や認識のズレ**を調整

第9回大学基準協会 大学評価研究所「公開研究会」振り返り(各研究員)

- 学生FDは**導入**が比較的容易で、**学生の成長**という点で大いに効果が期待できる取り組み
- 「学生参画」が**三つの領域**を全てカバーするのが理想的
 - ☆ 三つの領域(ガバナンス・内部質保証・ピアサポート)
- 自大学の取り組みの**特長の明確化**
- 持続的に**継続させるための要因**を確保
- 学生にとっての**意義**を把握

i) 取り組みの特長

学生参画の取り組み(大別)

- ・組織的な大学主導型
- ・教職員主導型
- ・学生の主体的な参画型

☆≡: 融合した「学生FD踏襲型」、「ピア・サポート型」
もあり、「**学生参画**」のフィールドは**多種・多様**

* 実際に取り組んでいる内容も、**大学の「内部質保証」に特化した取り組みは、極めて少ない現状**も存在

☆≡: 「学生参画」活動は、**全て内部質保証の向上**に繋がる

ii) 学生の立場

多くの学生が**大学の公募**や**主体的なピア・サポーター**として大学の様々な**「活動」に参画**している

☆彡: 参画している活動に対しては、**教職員との意見交換**

も活発 * 一部の意見は大学の**新たな提案**として採用

→ 学生からの意見を大学に**提案するルート**の担保

教員・事務方の**単独では厳しい面**も存在

「学生参画」している学生・教職員協働の立ち位置はある程度

確保 ☆彡: **大学の意思決定機関(部署)への「学生参画」**

については、ハードルが高い部分

iii) 実施を可能にしている要因

- ・大学の**建学の精神**に基づく学生および教職員の協働意識
- ・大学としての「**学生参画**」活動の**継続性**（下地有）
- ・教職員の**献身的な関連組織での活動**関与

☆彡：継続的な「学生参画」の運営には、大学側の
それなりの「**エフォート**」が必要

＊ 担当者が変わったら、継続できないのは大学全体
としての「**学生参画**」の**体制**が確立できていない側面

☆彡：「付焼刃」の一時の**間に合わせの対応**では、
「学生参画」の継続的な実施は厳しい現実

iv) 学生観(学生をどのように見ているのか、学生をどのように見ていることが「学生参画」の要因となっているか)

- ・大学の運営、授業や正課外活動等に関する

重要なステークホルダーであることは、共通認識

- ＊大学の内部質保証や質保証機関の評価プロセス

における「**学生参画**」の**目的の明確化**

☆≡：**誰に、いつ、何を、何のために**、「学生参画」により、自己点検・評価を実践するかは、「**単なる学生の意見**」を吸い上げるからの「**脱却**」には必要な問い

v) 学生にとっての意義

- ・今までの授業中心の学びが**実生活**に落とし込めた
 - ・様々な背景や考えを持った学生との**関わり**
 - ・社会人として**マナーやコミュニケーション力等の向上**
- ☆彡：一般的な成功・失敗体験だけでなく、「**自己成長**」

の実感も重要

*「学生参画」は、大学の内部質保証の「ツール」ではなく、**内部質保証に必要な「過程」**であり、取り組みの結果だけではなく、学生を**サポートする大学側の体制**が重要

注意：同じ「しかけ創り」でも、「学生参画」する学生によって、**意義も具体的な「成果」も差異**が大きい

vi) 課題

a) 自大学での「学生参画」の目的、意義および必要な組織

b) 「学生参画」の持続可能な継続性の担保

「学生参画」への取り組み：各大学の歴史的背景、学生と大学との協働についての組織体制、大学規模、地域性等に大きく依存

☆≡：「グット・プラクティス」は、あくまでもその大学での特長

* 自大学に寄り添った(無理の無い)組織運用が肝要

☆≡：「学生参画」は内部質保証の「特効薬」でも、大学ガバナンス、ミドルレベルおよび授業運営の全てをカバーできるものではないが、大学の「協働」の一環として認識

まとめにかえて(1) 内部質保証

「有効性」を担保するためには、多角的な観点からの相互的な検討が必須

*** 基本的に「特効薬」は存在しない**

☆彡: 全学的な内部質保証を推進する組織体もしくは長の「リーダーシップ」による、組織的な「内部質保証」体制の構築、方針の明示、必要な情報提供、情報の活用に向けたIRやFD・SDの推進、学生参画等、自己点検・評価の有効性に向けた**丁寧な「段取り」、「検証」、「施策」及び「改善」**を大学として実行

→大学全体、学部・学科、科目レベルの「アセスメント・ポリシー」や「アセスメント・プラン」を積極的に活用する。*** 策定されていなくても共通認識が重要**

☆彡: 「身近にある情報やツール」を有効活用しながら、**各大学が定める期間での「積み上げ」の可視化(失敗も成功の1つ)**

→その一環として**「学生参画」による各種情報**は、1つの有効な手法として活用可能(取捨選択は各大学で線引きが必要)

「有効性」の**各レベルの自大学での評価の観点**を、組織としての「議論」により涵養し、相互理解に繋げる→**押しつけの「有効性」からの組織的な脱却**

まとめにかえて(2) 内部質保証

教育及び学習等の諸活動の適切性を確保する目的

内部質保証の仕組みをどのように運用しているかや、運用の結果としてどのような改善等の結果が現れているか？

☆◇：例えば、**学位授与方針の具体性**、実施方法、学習成果の測定等への**連関性を再確認**する点検評価も必要

→何を学修成果として明文化するか、**学生との接点である「授業」も組織的に体系的にデザイン(編成)**されているか？

「有効性」を評価するためには、**一定の組織として「レベル」UP**をいかに**実行していくかも「課題」**として認識

大学基準協会 学習成果を基軸に据えた内部質保証実質化の参考資料

https://www.juaa.or.jp/common/docs/accreditation/evaluation_2025/other_11.pdf

まとめにかえて(3) 学生参画

内部質保証への学生参画のあり方に関するアンケートから(実施期間2023年10月24日～11月27日、ウェブ回答、397大学)

・大学における「学生参画」を担う組織(グループ)は、アンケート回答校の**8割近い大学**が有している。

☆彡:大学の**内部質保証に関連する委員会**に出席する
学生代表としての役割→**全体の5.4%(学部レベルでは、13.4%)**

* 学生参画の**「軸足」をどこにおくかがポイント**の1つ

・「学生参画」を担う組織を有していない大学でも、70%以上が何らかの学生による組織を構成予定

☆彡**ミドルレベルでの「学生参画」**も方向性の1つ

まとめにかえて(4) 学生参画

個別大学の特色や自己点検・評価への取り組みは、大学内の共通認識として、
重要な情報共有事項→何のための「学生参画」であるか？

自学での内部質保証における「学生参画」の方向性を検討・整理

「学生参画」の新たな仕組み創りや質向上を意識しながら、現存の組織的
取り組みから得られている情報も有効に整理・活用

☆彡：大学として参画学生に対する支援方法も必須の検討課題

箱物での意見集約やアンケートでも「学生参画」は可能

* 内部質保証に対する学生・職員・教員の「パートナーシップ」の醸成

この地道な「積み重ね」こそ、学生の主体的な「学びの質向上」に重要

参考関連サイト

- ◆ 法政大学HP：法政大学 大学評価室

<https://www.hosei.ac.jp/hyoka/>

- ◆ 第9回大学基準協会 公開研究会

https://www.juaa.or.jp/report/detail_953.html

- ◆ 大学基準協会 学習成果を基軸に据えた内部質保証の実質化の参考資料

https://www.juaa.or.jp/common/docs/accreditation/evaluation_2025/other_11.pdf

- ◆ 第4期認証評価の方針と特質／大学基準協会 常務理事 事務局長 工藤潤

<https://souken.shingakunet.com/higher/2024/07/post-3417.html>

- ◆ 法政大学2019年度認証評価関係資料：

①認証評価結果 ②点検・評価報告書(申請用) ③大学基礎データ(申請用)

<https://www.hosei.ac.jp/hyoka/accreditation/>

- ◆ 公益財団法人大学基準協会 大学評価研究所

質保証における学生参画のあり方に関する調査研究報告書

<https://www.juaa.or.jp/research/document/>

15:20～16:00 グループワーク

グループワーク① 自大学の取り組み紹介・共有（一人2分程度）

グループワーク② 「学生と教職員が『協働』する学生FD活動とは、どんなものだと思いますか？」 その意義と可能性、課題をグループで考えてみましょう！

グループとしてのテーマに対する意見を、用紙や付箋を利用して、グループの意見として発表用に纏める。

学生FD活動における「学生との協働」の方向性の検討項目（参考）

- ・目的・意義
- ・対象とする内容
- ・支援体制
- ・学生のモチベーションの維持
- ・期待される成果
- ・課題
- ・学生の意見をどう反映させるか
- ・「協力」と「協働」の違いとは？
- ・学生のモチベーションを高める工夫
- ・学生と教職員の信頼関係づくり
- ・実際に取り組みそうな協働プロジェクト

☆彡：書き方は自由ですが、内容がわかるように記述してください。

→次にグループ発表があります！

16:00～16:10 休憩

16:10～16:40 情報共有 グループワークの発表

全グループの内容紹介(各グループ3分以内をお願いします)

16:40～16:50 全体振り返り

「今日の気づき」と「これからできそうなこと」を各自、メモ書きして持ち帰ってください。

16:50 閉会

ご協力ありがとうございました。



法政大学 川上 忠重

Kawakami@hosei.ac.jp